

「やぶきた」における三番茶後浅刈り後の病害発生状況と防除法	分類	普及技術
<p>〔要約〕 「やぶきた」では三番茶後浅刈りによって、秋芽の炭疽病の発生は減少するが、輪斑病が多発する場合がある。浅刈り後の防除は、炭疽病については散布回数を削減できるので輪斑病に重点を置いて実施する。</p>		
茶業試験場環境研究室	連絡先	0993-83-2811

〔背景・ねらい〕

温暖化による茶期早進化への対応や更新効果をねらって三番茶後に浅刈り更新をする事例が増えつつあるが、浅刈り後の病虫害発生状況や防除法は検討されていないことから、「やぶきた」における浅刈り後の病害発生状況と防除法を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 三番茶摘採後のせん枝の程度が深くなるにつれて秋芽の炭疽病の発生は減少し、浅刈り程度のせん枝で耕種的な防除効果がある（表1）。
- 2 浅刈り後に輪斑病が多発生し、秋芽で新梢枯死症が多発生する場合がある（表2）。
- 3 浅刈り後は輪斑病の防除を行い、秋芽生育期の炭疽病については無防除もしくは1回防除することで十分な効果がある（表3, 4）。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 適用範囲：県内全域
- 2 浅刈りによって輪斑病の発生が増加するのは、せん枝によって葉や枝の切り口が大きくなるのが要因の一つと考えられる。また、炭疽病の発生が減少するのは、伝染源が減少するためである。
- 3 炭疽病・輪斑病（新梢枯死症）以外の病害、特に網もち病の多発地域については、適宜防除が必要である。

〔具体的なデータ〕

表 1. せん枝の程度による炭疽病の発生状況

せん枝の程度	炭疽病発病葉数 (枚/m ² , 秋芽)		
	I	II	平均
無せん枝	24.4	62.6	43.5
5mm	25.0	22.5	23.8
10mm	7.4	11.3	9.3
20mm	2.9	8.1	5.5
50mm	0.3	0.6	0.4

注) 三番茶摘採 (平成 16 年 7 月 20 日) は +20mm で行った。せん枝は 7 月 27 日。

表 2. 浅刈りによる輪斑病の発生

区名	輪斑病 (枚/m ²)			新梢枯死症 (本/m ²)		
	I	II	平均	I	II	平均
浅刈り	197.0	239.0	218.0	26.0	51.5	38.8
慣行	16.4	22.0	19.2	8.5	9.5	8.8

注) 浅刈りは平成 15 年 7 月 14 日 (三番茶摘採当日) に前年一番茶摘採位置で行った。

表 3. 浅刈り後の省力防除体系の効果 (平成 15 年度)

区名	散布時期			発病葉数 (枚/m ²)		総合評価
	三番茶・浅刈り直後	秋芽萌芽～1葉期	秋芽3葉期	輪斑病	炭疽病	
浅刈後3回	アミスターF	ベフドー水	インダーF	1.0	0.5	○
浅刈後2回	アミスターF	—	インダーF	3.5	1.0	○
浅刈後1回	アミスターF	—	—	1.5	94.0	△
浅刈後無防除	—	—	—	167.0	50.5	×
慣行3回	アミスターF	ベフドー水	インダーF	0.0	1.0	○
慣行2回	アミスターF	—	インダーF	1.5	1.0	○
慣行1回	アミスターF	—	—	0.5	359.5	×
慣行無防除	—	—	—	24.0	329.0	×

注) アミスター20F 2,000 倍, ベフドー水和剤 500 倍, インダーF 5,000 倍を 200g/10a 相当量散布した。—は無防除を示す。浅刈りは平成 15 年 8 月 1 日 (三番茶摘採日) に摘採位置から 50mm 下げて, 古葉が若干残る程度に行った。発病葉数は 2 反復の平均。

表 4. 浅刈り後の省力防除体系の効果 (平成 16 年度)

区名	散布時期			発病葉数 (枚/m ²)		総合評価
	三番茶・浅刈り3日後	秋芽萌芽～1葉期	秋芽3葉期	輪斑病	炭疽病	
浅刈後3回	アミスターF	ベフドー水	インダーF	1.0	0.0	○
浅刈後1回	アミスターF	—	—	1.0	1.0	○
浅刈後無防除	—	—	—	21.5	0.5	×
慣行無防除	—	—	—	9.0	30.0	×

注) 薬剤は表 3 と同じ条件で散布した。浅刈りは平成 16 年 7 月 26 日 (三番茶摘採日) に三番茶摘採面より 40mm 下げて, 古葉が若干残る程度に行った。発病葉数は 2 反復の平均。

〔その他〕

研究課題名: 温暖化に対応した輪斑病防除技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成 15~18 年

発表論文等: 平成 15, 16 年度茶業試験場病害虫に関する試験成績書